



虫の眼と鳥の眼をもって

園長 多比良 由恵

赤や黄色の落ち葉が舞う園庭で、先日5歳児ゆり組の子どもたちが、1学期に植えたサツマイモの収穫をしました。ツルを引っ張ったり、土の中からイモを掘り出したりしながら、全身で楽しみました。また、11月中旬に行った水族館遠足の後、4歳児もも組の子どもたちを、自分たちで作った「ゆり組水族館」に招待しました。魚に餌やりができる水槽、カフェ、電車…など、子どもたちのアイデアがたくさん集まった素敵なお水族館に、もも組の子どもたちも大喜びでした。楽しかった気持ちをさっそく遊びに取り入れて、もも組でも「もも組水族館」を作っていました。

さて本園では、令和元・2年度 文京区教育研究協力園として「たのしい！うれしい！やってみよう！～直接体験を通して～」を研究主題に、研究に取り組んできました。本来であれば、公開保育や研究発表を、幼児教育に関わる皆様や地域の皆様に広く発信し、ご覧いただく予定でございました。しかし、コロナ禍の中、安全を第一に考え、文京区立幼稚園へのオンライン配信という形での開催と致しました。同時に、隣接する青柳小学校と幼小接続の学びを共有する機会にしたいと考えております。

新しい生活様式が始まり、小中学校ではオンラインでの授業配信や一人1台のタブレットなど、ICTの活用は様々な場面で積極的に実施されています。社会や家庭でも、テレワーク、オンラインでの会議、音楽ライブ、懇親会、ヨガ…、などあらゆる分野での取り組みが行われています。しかしながら、文京区立幼稚園での研究発表のライブ配信は初の試みです。私たちも様々な関係機関と連携を取り、ご指導・ご支援をいただきながら、試行錯誤し、実現に向けての準備に取り組んでいます。大変なことや予想外の困難もありますが、一つ一つ乗り越えられていく喜びや嬉しさも実感しています。この配信での発表の取り組みも、多くの学びや経験をさせていただき貴重な機会としていきたいと思っております。

11月に、元宇宙航空研究開発機構 副理事長 樋口清司さんのお話を伺いました。「あなたのふるさとはどこですか？と聞かれたとき、その時いる場所で答えが変わる。東京駅で聞かれれば、文京区。名古屋駅で聞かれれば、東京。アメリカで聞かれれば、日本。月で聞かれれば、地球、と答える。宇宙に出れば地球がふるさと。認識や視野が変わることで、自分や自分のいる場所を認識する」というお話がありました。今、宇宙空間では、野口聡一さんが『クルードラゴン』という新しい宇宙船で宇宙に出発し、国際宇宙ステーションに滞在しています。

コロナ禍の地球は、宇宙からどんな風に見えるのでしょうか。広い視野をもちながら、目の前の子どもたちの遊びの充実や学びへの芽をしっかりと育てていきたいと思っております。



さつまいもの収穫「皆でツルをひっぱれー」

ゆり組水族館「エサは上からあげてね」 クラゲのトンネル